

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

### 新規受託項目

- [7778] WT1 mRNA定量

### 受託開始日

- 平成22年9月1日(水)

## WT1 mRNA定量

Wilms腫瘍は1899年にDr.Max Wilmsにより発表され、小児に好発する腎癌として古くからよく知られています。1990年にCallらにより小児Wilms腫瘍の原因遺伝子として染色体11p13にWT1 (Wilms Tumor-1) 遺伝子が単離されました。またCallらは白血病細胞株K562とCCRF-CEM細胞においてWT1 mRNAの発現が認められることを報告し、1992年にMiwaraが急性骨髄性白血病(acute myeloid leukemia:AML)の過半数(15/22)の症例に、さらに1994年にはInoueらがAMLの初診時の全例(45/45)にWT1 mRNAの発現を認めたことを報告しています。

WT1 遺伝子は細胞増殖や運動機能の促進作用を有しており、細胞の分化に伴い消失しますが、何らかの原因で消失しなかった場合、癌化の原因になると考えられています。

また、造血器腫瘍や固形癌ではWT1 mRNAの増加により、WT1が高度に発現しており、治療により陰性化した場合でも再発時には再度上昇すること、再発時には診断時よりさらに発現していることなどが報告されています。

本検査は白血球中のWT1 mRNA量をリアルタイムRT-PCR法により定量するもので、AMLの診断の補助や経過観察、さらにAMLのMRD(微小残存病変)を高感度に検出することが可能であるため、AMLのMRDのモニタリングマーカーとして早期の再発診断や予後判定に有用です。

また骨髄液と比較して、患者への負担が少ない末梢血を検査材料としています。

### 検査要項

項目コード	7778
検査項目名	WT1 mRNA定量
検体量	EDTA加血液 7mL <sup>*1</sup>
保存方法	冷蔵(4℃)
検査方法	リアルタイムRT-PCR法
基準値	50 copy/ $\mu$ gRNA 未満
所要日数	4~10日
検査実施料	2000点([D006-7]WT1 mRNA核酸増幅検査) <sup>*2</sup>
判断料	125点(血液学的検査判断料)
定価	40,000円
備考	<p>*1: 容器番号14番でご提出下さい。 ※5.5mL採血管でご提出の場合は2本ご提出下さい。 なお、白血球数が2000個/<math>\mu</math>L未満の場合はRNA量が不足する場合がありますので、採血量不足には十分ご注意ください。</p> <p>*2: WT1 mRNA核酸増幅検査はリアルタイムRT-PCR法により、急性骨髄性白血病の診断の補助又は経過観察時に行った場合に、1月に1回を限度として算定できる。</p>

### 参考文献

宮脇 修一, 他: 臨床血液, 46(12), 1279-1287, 2005.